

# 岐阜県図書館 創立 80 周年記念シンポジウム

テーマ：「清流の国づくりを担う県図書館のあり方」

概要：岐阜県図書館創立 80 周年を記念して、県図書館の使命として掲げる「岐阜のひとづくり、ものづくり、まちづくりの支援」を進めていく上での課題や期待される役割・方策などを議論したシンポジウム。

開催日時：平成 26 年 12 月 6 日（土）14:00～15:30

会場：岐阜県図書館 1 階 多目的ホール

出演者：葉袋 秀樹 氏 コーディネーター 筑波大学名誉教授  
中村 航 氏 岐阜県出身作家  
小林 昌廣 氏 I A M A S 教授・図書館長  
小林 光代 氏 中津川市立図書館長  
伊藤 桜子 氏 中部学院大学 4 回生（公募によつての選出）

## 【各パネラーからの主な発言・提言】

中村氏：

- ・ 子どもの頃から大人になるまで図書館に支えられたということで、物語を読むことを通じて小説を書くベースになった。
- ・ その後も知らない世界のことを知る、あるいは世界のロジックを理解する点で、図書館が大変役に立ち、「図書館というのは世界を知るための扉」と感じていた。
- ・ 岐阜県図書館は、地図コレクションや絵本、郷土資料で大変すばらしいコレクションを持っている。人間の記憶量や保存物には限界があるが、図書館が存在することで、それを諦めたり、忘れてたりすることができる。「図書館が最後の砦としてある」からだ。
- ・ 子どもの頃からの読書体験や図書館利用体験が、大変重要であると思う。
- ・ ディフェンス、オフenseで例えると、図書館はとてディフェンス力が強い方だと思う。一方、街の書店はオフense力が強いと思う。
- ・ つまり、図書館は、やはり使ってもらうことが一番重要なので、まず図書館に来てもらわないといけない。そのためには、様々な形で、イベント等も含めて図書館から情報発信をしていくことが必要ではないか。
- ・ 県図書館には、豊かな場所があって、豊かな人材もいる。図書館は、やはりとてディフェンス力、受け身の力がある。
- ・ 作家として書くだけでなく、何かもう少し発信したり、読んでもらえるような工夫や活動をしたりしていく必要をいつも考えているが、図書館も同じことではないだろうか。これからの県図書館に、期待している。

小林（昌）氏：

- ・ 図書館を情報のある場所と捉える場合、ICT 技術を利用することで、図書館利用者に対して様々な情報提供サービスができる。
- ・ 図書館サービスの中では、司書から情報を得たとか、レファレンスの回答を得たという経験は、大変貴重な経験であつて、その経験者は図書館の持つ力がよく理解できるはずだ。
- ・ 図書館で資料を探すとしても、ピンポイントに資料を探すのではなく、周辺の資料、周辺全体が見えていくということが大切である。探している情報も、膨大な情報の一部であるため、全体を見て、その中にある個別の資料を探さないと、ピンポイントの情報だけを見ては間違ってしまうかもしれない。
- ・ デジタル情報については、その保存に課題がある。今後はデジタルアーカイブに着目し、紙の資料とデジタル資料、それがつなぎ目のないシームレス（利用者が複数のサービスを違和感なく統合して利用できること）な形で提供できるように、保存についても考えていかないといけない。
- ・ 見つからない情報を見つけなければいけないとき、「書物の森」または「海」というべき、錯綜した活字の空間にさまようことで、何か見つけられることもある。そのような体験を多くの図書館利用者に経験していただければ、図書館はより一層おもしろいところだと理解いただけると思う。

小林（光）氏：

- ・ 県図書館の、市町村図書館と異なる独自の役割として、専門的・広域的サービス、そして県図書館から本を貸してもらい相互貸借サービスがあり、とてもありがたい。この、市町村図書館と異なる役割を、より一層推進していただければと思う。
- ・ 資料の保存についても、市町村図書館では資料を保存し切れないので、県図書館で保存していただきたい。
- ・ 図書館活動の根本にかかわる問題として、「図書館というのは大変地味である」がある。残念だがなかなか理解いただけない部分であると思う。そこで、図書館関係者が、図書館について積極的に発信し、広く図書館を理解していただくように取り組めないか。
- ・ デジタル情報とアナログ情報、あるいは本とデジタル情報については、両方必要である。利用者が両方利用する以上、両方共に提供しなければいけない。

伊藤氏：

- ・ 県図書館は、市町村の図書館とは一味違い、生涯学習の場や課題解決の場であるという、勉強するのに大変便利な図書館である。
- ・ 自分の周りにも、そのことを残念ながら知らない人がまだまだ多いので、若者向けサービスをしていただいたらどうかと思う。そのようなサービスを受け、若者が自分磨きの場として県図書館を活用できるようになればと思う。
- ・ 今、大学でも学校でも生徒が能動的な参加型の学習に取り組んでいる。それについて図書館でも、若者が能動的な参加型の利用ができないかということを考えてはどうか。
- ・ 若者も県民として積極的に、図書館のあり方を考え、図書館の運営への参加を進めていく必要があるのではないか。

葉袋氏（コーディネーター）：

- ・ 「書庫にぎっしり詰まった本の圧倒的な力」との発言もあったが、その書庫を利用者に見ていただくということが重要だとのことのご意見だと理解した。
- ・ 直接的に生涯学習や課題解決のために県図書館を利用する利用者のための役割と、市町村立図書館を支援する役割の二つが重要であると確認できた。
- ・ 「本の森をさまよう」大変いい言葉だと思う。本の森をさまようことの重要性、このような言葉がこのシンポジウムで発言されたことを最後に周知したい。